資料2

千葉市新基本計画（原案）のうち第1章～第3章に対する委員からのご意見

No.	原案の記載内容（第1章～第3章）								意見及び対案	意見の理由	委員	部会委員
1	全体								全体を通じて感じるのは、「市の財政が困難」だから、とにかく「市民の手で全てが賄うことが出来るように」というニュアンスの濃い基本計画なので、あくまでも市民の総意に基づくものとしていかなくてはと、思います。		細谷委員	
2	全体								市財政の危機やまちづくりの重要課題に対し、どのように対応していくかについて、総論で確り打出すべきではないでしょうか。言及や記述があまりにも少ないように思われます。 (1)効果的で効率的な行政運営をどうするか。 財政危機への対応の大筋の考え方、或いは事業仕分けのような事例でもよいが、何らかの表現が必要ではないでしょうか。新たに3章5項設定して記述する案も考えられますが。 (2)まちづくりの重要課題にどう対応するか。 3章2項「まちづくりの方向性」こそが、4章分野別計画(計画の本体でしょう)の大枠となるので、3章2項において、課題への対応を明示的に言及する必要があるのではないでしょうか。 特に「人口減少」、「自立分権都市経営」への対応が現在は殆ど表現されていないように思われます(少子高齢、環境、グローバル社会については言及されていますが)。	10年前の計画策定時においては、明るい展望や夢ばかりであっても違和感はなかったかもしれませんが、現在は殆どの市民が、とりわけ若者層は夢だけではなく、厳しくなる一方の課題にどう対応していくかも、基本計画の骨子に求めているのではないでしょうか。 確かに財政危機状況や重要課題は的確に捉えられており、大きく記述されています。 しかし、3章2項以降の「ではどう進めていくか」においては、危機や課題への対応方針や考え方があまり明確にされていないように見えます。	金谷委員	
3	第1章	2	(1)			p.5	上から16行目	そのためには、多様な主体が、本市の目指す目標とその実現…	「本市の」という言葉を削除したほうが良いのではないか。	この表現では「本市の目指す目標」が先にあり、そこに「多様な主体が従っていく」という考え方に受け止められかねない。	細谷委員	
4	第1章	2	(3)			p.5	下から2行目	「市民の多様なニーズに応える…」	ここで使われている言葉や、後に出てくる同じ言葉は「社会的に多様なニーズ」と変更したほうがよいのではないか。	「市民の多様なニーズ」という言い方をしているが、市民個々の持つ要求は、押しなべて「社会的に必要なニーズ」として集約されていくものと考えられる。勿論、その実現に向けては時間的差があることも事実なので、前項にあるPDCAサイクル管理を徹底する中で、重要度も決められていくと思われる。	細谷委員	
5	第1章	5				p.14～16		2ページと4行のスペースを割いて①財政の現状と財政健全化へり取組み②今後の課題 について触れております。	財政問題と新基本計画との関連性をもっと強く記載する必要があると思われます。	収入を十分考慮した新基本計画を策定しないと過去の過ち、すなわち更なる財政の悪化を招く事に繋がる恐れが潜んでいるからです。	小河原委員	
6	第1章	5	(1)			p.14	上から8～11行目	「本市は平成4年の政令指定都市移行を契機として…財政健全化に向けた取組みを強化してきました。」	・大都市にふさわしい都市基盤整備を行ってきたことが、市債残高の増、基金の枯渇、財政の硬直化を招いた原因(元凶)であり、あたかも、過去の都市基盤の整備が誤りであったかのごとく表現されている。 ・必要な都市基盤の整備を行ってきたことをしっかり評価するとともに、財政問題はオール市政の問題であるとの認識が必要である。 ・ひとり都市基盤整備を悪役とする論調はいかがなものでしょうか。		依田委員	

No.	原案の記載内容（第1章～第3章）								意見及び対案	意見の理由	委員	部会委員
7	第1章	5	（2）			p.16	上から1行目	「このようなことから、本計画の推進にあたっては、…」	当該文章の削除が望ましいと思う。	市民の創意としての「まちづくり」を進めようとしている現在、おそらくは今までも市民の大きな負担で作られてきた財産がたくさんあると思うし、「…市の財政状況を充分に踏まえて、最少の経費で、最大の効果を上げよ」というのでは本末転倒である。市の財政状況は、あくまでも「認識しておくべき項目」としてとどめるべきものだと思う。市税減収の大きな原因が「個人市民税」「法人市民税」にあるならば、そこに対する対策を如何にしていくかの市政そのものが問われるのだろう。	細谷委員	
8	第2章 第3章							第2章や第3章で市民参加について触れられております。	各項目にそれぞれ「市民参加・協働」の文言を織り込むのも一つの方法と思われますが、市民の皆さんに強く認識して頂く為にも、独立項目として記載するか、或いは文章の流れの中で目立つ記載方法に工夫が必要と認識いたします。	財政問題を抱えている本市としては、特に市民参加が最重要課題と認識いたします。	小河原委員	
9	第2章	2				p.18	上から1行目	計画の推進主体	今後のあるべき姿として趣旨や意図は賛同いたしますが、スムーズに受け入れられる表現か、或いは丁寧な説得的な追加文章が必要ではないでしょうか。	タイトルの「推進主体」が強い印象を与え、また説明文章で市民、団体が前面に出てしまっていますが、唐突感や違和感を与えるのではないでしょうか。 確かに補完性の原則がありますが、現時点ではそれをすんなり受け入れる一般市民は多くないのではないでしょうか。 市民・団体が全面的に前面に出てと言われると、「では行政は二次的でよいのか、一体何をやってくれるのか」という反発が先にくることになるではないでしょうか。	金谷委員	
10	第2章	2				p.18	上から12～13行目	「行政・・・それぞれの主体が公共活動をしやすい環境づくりに努める、それぞれの主体の積極的な連携・協力を促進し、公共活動の充実を図る。」	行政の役割の見直しをお願いします。	原案では、行政の役割は市民等による公共活動の環境づくりや連携促進だけとなっています。 新基本計画を行政（千葉市）の名前で作成する以上、行政には新基本計画完遂の責任があると思います。 原案第4章の「施策の展開」には、中枢危機管理機能の確立や市営水道の機能更新のように行政でなければ出来ない施策が記載されています。	春川委員	○
11	第2章	2				p.18		計画の推進主体	・「公共活動」の定義がP18の欄外のとおりであるなら（この定義が妥当とは思いませんが）これらの主体が行う活動は任意的であり、責任を伴わないものである。まちづくりの主役は、まちを形成する市民や組織など様々な構成員であるのは当然であるが、計画を責任を持って推進する中心的主体になりうるでしょうか。 ・多種多様な市民や団体の参加を得て、しっかり手続きを踏んで作成し、さらに、市民の代表である市議会の同意も得て決定する行政計画を、責任をもって推進していく役割は一義的には行政にある、と考えます。任意であり義務も責任も問われない各主体に推進をゆだねるのはいかがなものでしょうか。 ・行政が市民の付託に応えるべく、責任を持って計画を推進し、一方、各主体も自ら参画して作成された計画を責任と自覚を持って主体的に参画推進していくことが重要である。 ・「みんなで連携して協力してやっていこう」のような、漠然とした考え方はどうなんでしょうか。 ・もっと、行政の責任ある主体的取り組みをしっかり記述すべきではないでしょうか。公共活動がしやすい環境を整えたり公共活動のコーディネイターとなることのみが行政の役割ではないと思う。 ・なお、あらゆる主体の参画や主体的行動は当然であり、P26のまちづくりの底力の図のとおりだと思う。		依田委員	

No.	原案の記載内容（第1章～第3章）								意見及び対案	意見の理由	委員	部会委員
12	第2章	3	（2）			p.18	下から6行目	「…行政改革と財政健全化の取り組みの強化…」	「行政改革と財政健全化の取り組みを強化しながら」の言葉を削除したほうがいいと思う。	市民参加の「まちづくり」活動が、結果として「行政改革と財政健全化」に繋がるとしても、ここを出発点にするのではなく、市民自らの意思として「限られた財源」を理解し、一人ひとりが何を考えて行動を起していくかが大事だろう。それを踏まえた行政運営が求められている。	細谷委員	
13	第3章	1	（1）			p.19		図	図に表題や単位がないです。せめて単位は記載するようお願いします。	新基本計画を熟読せず、パラパラと図表だけ見る人もいると思います。	春川委員	○
14	第3章	1	（5）			p.24	欄外（脚注）	アセットマネジメント	・アセットマネージメントの説明ですが、私の理解では、もう少し広い意味であると思います。		依田委員	
15	第3章	2				p.26～		まちづくりの方向性	提案1：<u>分野別計画で「市民に期待される行動」を検討すること</u> ・『底力』を発現させるためには、具体的に市民に何が求められるのかを明確にする必要があると思います。 ・それぞれの分野で市民に何が期待され、どう行動して欲しいかを整理することが重要だと思います。 提案2：<u>分野別計画で「参加と協働の母体」を検討すること</u> ・自治会や社会福祉協議会などの地域組織の現状や機能を見極めつつ、この計画を推進するに適う「参加と協働の母体」のありかたを議論する必要があると思います。 ・その多くは、総論部会での議論に委ねることがふさわしいと考えますが、個々の場面に当てはめて、分野別の項目毎に、組織・母体のあり方を検討することが必要であると考えます。	<u>『連携による底力』の発現が成否のカギ</u> ・基本目標の「まちづくりを支える力」として、『多様な主体の連携が織りなすまちづくりの底力』を大きく取り扱われていることは、非常に重要な視点で、今回の計画の先進性を感じます。 ・財政的課題や少子高齢化、市民ニーズの多様化のなかで、『連携による底力』の発現が、計画推進の成否を支配するものであると考えます。 <u>『連携による底力』の現状をどう評価しているか？</u> ・一方で、このように重要な役割を担うべき『連携による底力』の現状に関しては、P25の「社会貢献への考え方」や、参考としていただいた「意識調査結果」に少し触れられている程度で、これらだけでは十分な分析と評価がなされているとは思えません。 ・仮に、意識調査やワークショップなどで、参加と協働の意識の向上が認められたとしても、なかなかそんなふうに動かないのが一般市民の行動ではないかと思います。 ・言い換えると、一般市民にとって、自分の時間を『参加と協働』に割り当てることの優先度は、低いと言わざるを得ません。私の場合で考えてみても、①仕事、②個人と家族、③趣味やつきあいの順で、このランキングに『参加と協働』は入ってきません。 <u>さてどのように『底力』を発掘し高めていくか？</u> ・『底力』は、会議や調査などだけでは十分に把握できるものではないと思います。実際の生活現場に当てはめて『実験と経験』を繰り返して育つものだと思います。 ・総論での記述に対して、異を唱えることはおそらく少ないと思います。むしろ、分野別計画や区別計画の各論部分で、『底力』の発掘・育成を議論することが重要だと思います。	松本委員	
16	第3章	2	方向性2			p.27	上から9行目	「…生み、育てやすい環境づくり…」	「…育てやすい環境づくりがワーク・ライフ・バランスの考えの基に進めることが求められます」と文章を加えたほうがよいと思われる。	「次代を担う子供たちを安心して生む」のは女性であり、「育てやすい環境づくり」となると、子を産み育てつつ働き続ける女性と、その子供たちの成長の場で働く女性、双方の労働環境が大事になるとともに、社会を共生する男性の労働環境の充実も重要になる。	細谷委員	
17	第3章	2	方向性2			p.27	上から11行目	「…保健医療の充実を図ります。」	この段落のあとに「<u>そのためにも人材育成に力を注ぎます</u>」という文章を加えたほうがよいと思われる。	「医療保険の充実」を図るため	細谷委員	

No.	原案の記載内容（第1章～第3章）								意見及び対案	意見の理由	委員	部会委員
18	第3章	2				p.28		まちづくりを支える力	・P26の図に記された「まちづくりの底力」は、よく理解できる。しかし、P28の中段から下の記述は抽象的、情緒的である。 ・今までの、市における「まちづくり」は、本当に記述のような国からの上意下達の進め方をしていたのであろうか。漠然とした抽象的な表現は誤解を招く。 ・「補完性の原理」は一つの考え方であると思うが、一方では、「国は国家として国益上必要なことを行い、県は広域的に必要不可欠なことを、市は基礎的、基本的な団体として必要不可欠な、主として市域完結のことを行う。地域はこれらにも当然大きく関与しつつ、市民自らの生活領域の課題などを行う」との考え方もあると思う。 ・住民自治の原点に立ち戻ることは大賛成であるが、そこには、住民・地域の義務と責任が伴う。このことを抜きに住民自治を声高くうたうと、無責任、自己主張、言いたい放題、となり、公共性、公益性と、バッティングすることになる。 ・あえて、今回、「補完性の原理」という言葉を用いる必要はなく、「責任ある、主体的な地域からの行動」について、しっかり記述すればよいのではないかと思います。 ・「市民一人ひとりから始まるまちづくりへの転換」は理念・方向性として理解できるが、あたかも、今回の10年計画で一足飛びに実現が可能であるかの記述はいかがであろうか。		依田委員	
19	第3章	2	まちづくりを支える力			p.28	下から4行目	「…それぞれの役割に応じてしなやかに連携・協力しながら、ともに取り組んでいきます。」	「…連携・協力しながら、ともに<u>制度的に矛盾のあるものについては、県・国を通して改善を図ります。</u>」としたほうがよいと思う。	法的なものも含めて、市段階で解決できないものに対する対応を明確にしておく	細谷委員	
20	第3章	3				p.31		「訪れてみたい・住んでみたいまち」	「住んでみたいまち」の見直しをお願いします。	原案では、これから実現すべきまちの個性として「訪れてみたい・住んでみたいまち」を掲げ、その内容を7項目挙げています。 その7項目の多くは観光地としての魅力です。人を永住させるための魅力ではないと思います。 教育、医療、商店街が充実している所や税金の安い所に人は永住したくなると思います。	春川委員	○
21	第3章	4				p.32 他		目指すべき都市の構造	老人にも読みやすい文章でお願いします。	長い文章は読みにくいです。私の場合、3行（120字）を超えると長いと感じます。	春川委員	○
22	第3章	4	（1）	ア		p.32	下から15～16行目	「･･･集約型都市構造への転換を基本に、適正な土地利用の誘導・高度化などによる機能更新や再編を進め、都市機能の維持・更新・向上を図ります。」	「･･･集約型都市構造への転換を基本に、<u>PPP（Public Private Partnership）の活用等により、</u>適正な土地利用の誘導・高度化などによる機能更新や再編を進め、都市機能の維持・更新・向上を図ります。」	厳しい財政状況の中、集約型都市構造への転換に資する都市機能の維持・更新・向上を着実に推進するには、適切な民間誘導や官民連携が不可欠であるため。（方法論が希薄との批判を想定し、具体の手法としてPPPを追加）	宇佐見委員	○
23	第3章	4	（1）	ア		p.32	下から10行目	「…市民生活への影響が大きい…」	どの程度、個々の市民に影響が出てくるのか、もう少し、その内容が明らかに出来ないだろうか。		細谷委員	
24	第3章	4				p.34 他		「交通結節性」、「整流性」、「シティセールス」等	わかりやすい言葉でお願いします。	言葉がわかりません。	春川委員	○

No.	原案の記載内容（第1章～第3章）								意見及び対案	意見の理由	委員	部会委員
25	第3章	4	（3）	ア	（ウ）	p.34	下から9～10行目	「蘇我副都心では、鉄道の結節点であるJR蘇我駅周辺部と臨海部を一体として、商業、スポーツ・レクリエーションや防災機能を主体とした整備を進めます。」	「蘇我副都心では、鉄道の結節点であるJR蘇我駅周辺部と港湾機能を有する臨海部を一体として、商業・業務、研究開発、スポーツ・レクリエーションや防災機能を主体とした整備を進めます。」	・鉄道結節点であることに加え、日本有数の港湾取扱貨物量を誇る千葉港の一部に位置していることが、蘇我副都心の強みであるため。 ・蘇我特定地区整備計画において、「商業・業務」、「研究開発」も主たる土地利用計画として位置づけられているため。 ・なお、上記は千葉都心や幕張新都心の記載内容とのバランスに配慮した必要最小限の意見であり、千葉市が首都圏の主要な拠点都市としてバランスのとれた多心型の都市構造を構築するためには、3都心の更なる育成、機能強化が不可欠であり、3都心の記載内容を充実すべき。	宇佐見委員	○
26	第3章	4	（3）	イ		p.34	下から1～2行目	「生活機能拠点をJRの幕張本郷駅、幕張駅、新検見川駅、稲毛駅、西千葉駅、検見川浜駅、稲毛海岸駅、都賀駅、鎌取駅、誉田駅、土気駅、浜野駅及び千葉都市モノレールの千城台駅の周辺に設定します。」	13の生活機能拠点が並列的に記載されているが、JR駅の乗車人員では最大で約8倍の差（稲毛駅/浜野駅）があり、駅周辺の公共公益施設や利便施設、後背地の住宅の立地状況等も勘案すると、一律の記載は不合理であり、グルーピングして説明すべき。（特にポテンシャルが高い稲毛駅など）	（参考） ・稲毛駅　50,694人（1日平均乗車人員） ・幕張本郷駅　25,821人 ・西千葉駅　24,148人 ・新検見川駅　23,337人 ・稲毛海岸駅　21,918人 ・都賀駅　20,142人 ・鎌取駅　18,634人 ・検見川浜駅　15,805人 ・幕張駅　15,204人 ・土気駅　13,861人 ・誉田駅　6,912人 ・浜野駅　6,279人 ・千城台駅　4,436人 ※JR駅は2009年度、千城台駅のみ2008年度	宇佐見委員	○
27	第4章					p.39　他		「図ります」、「取り組みます」、「進めます」、「推進します」など	言葉の再検討をお願いします。	原案には「やる」という意味の言葉が何種類か出てきます。「図ります」と「取り組みます」は、やってみるが実現しなくてもかまわないという意味でしょうか？逆に、「進めます」と「推進します」は、必ず実現させるという意味でしょうか？ 「図ります」が多数出てくると計画書としての迫力がうすれると思います。	春川委員	○